

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371500642
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム本郷
訪問調査日	平成19年11月26日
評価確定日	平成19年12月19日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371500642		
法人名	有限会社 アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム本郷		
所在地	名古屋市名東区本郷三丁目84番地 新明ビル (電話) 052-772-5550		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成19年12月19日

【情報提供票より】(平成19年11月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年11月15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	21 人	常勤13人, 非常勤8人, 常勤換算3.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年11月18日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85.2 歳	最低 77 歳	最高 94 歳
協力医療機関名	メイトウホスピタル・明徳クリニック・ファミリー歯科		

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に集合住宅が建ち並ぶ環境の中、5階建ビルの1、2階部分がホームであり、社員寮を改装している。玄関にはパンジーの花が植えられ、寛げるよう長椅子が用意されている。入居者は穏やかな表情をされており、一人ひとりに役割があり、積極的に参加している姿が見られるホームである。運営推進会議を通じて自治会の行事(敬老会、本郷公園夏祭り、コミュニティーセンター祭り、運動会など)に積極的に参加したり、ホーム側から「ホーム6周年記念式典」へのお誘いをするなど、地域の人々と接する機会を多くもつよう配慮している。家族アンケートの結果からも家族と職員との信頼関係が良好であることがうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善点は、管理者、職員で自己評価について話し合い、玄関には長椅子が用意され、居場所の工夫が見られたり、介護計画の見直しは定期的に行われている。物品の保管管理も改善されている。市町村との関わりも積極的に努力するなど、できる事から見直している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は言葉にすることは難しかったが、日頃のケアを振り返り自分の足りないところにきずかされた。</p>
	<p>重点項目</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、3~4カ月に1回開催している。参加者は自治会長、民生協力委員、入居者家族、入居者である。自治会長や民生協力委員の方から、地域の行事報告や次回の予定などの話しをしていただけるなど温かい関係ができている。ホームからは、毎回テーマを決めており、第2回目は心肺蘇生法やAEDの使用方法などを紹介した。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱が設置され、自由に意見が言えるように配慮されている。家族会は無いが、運営推進会議の後、1時間くらい家族と職員が意見交換会を行っている。参加できなかった方には、直接電話で話を伺っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加し、夏祭りや敬老会のお誘いをいただいた。入居者と職員が一緒に喜んで参加し、地元の人々と交流を図ることを積極的に取り組んでいる。夏に玄関先でスイカ割りをしている時、通りがかった人が声をかけてくれたり、ホームについて質問を受けるなど、気軽に声をかけてもらえる関係ができています。自治会の回覧板を通して、ホームの行事案内をしようと現在、話し合っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、利用者様の気持ちを大切にします。」を運営理念に掲げ、介護理念は「私たちは、利用者様の自立的生活支援を行います。」としている。地域との関わりは運動会など地域の行事に参加したり、地域のゴミ出し、散歩時の挨拶などを積極的にしている。		地域密着型サービスとしての役割を理解し、積極的に取り組んでいる。今後は、理念の中にも地域との関わりについて表現されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアや事務所に掲示されている。朝礼で唱和し、職員の共有を図っている。サービスの提供場面において理念を掘り下げ、職員全体で話し合い、具体的なケアについての意見統一を図ることを目指している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、夏祭りや敬老会のお誘いをいただいた。入居者と職員と一緒に喜んで参加し、地元の人々と交流を図ることを積極的に取り組んでいる。夏に玄関先でスイカ割りをしている時、通りがかった人が声をかけてくれたり、ホームについて質問を受けるなど、気軽に声をかけてもらえる関係ができています。自治会の回覧板を通して、ホームの行事案内をしようと現在、話し合っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点は、管理者、職員で自己評価について話し合い、玄関には長椅子を用意し、入居者が寛げる場所の工夫をしたり、介護計画の見直しについては、定期的実施するなど、できるところから取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、3～4カ月に1回開催している。参加者は自治会長、民生協力委員、入居者家族、入居者である。自治会長や民生協力委員の方から、地域の行事報告や次回の予定などの話しをしていただけるなど温かい関係ができています。ホームからは、毎回テーマを決めており、第2回目は心肺蘇生法やA E Dの使用方法などを紹介した。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の窓口に対して、提出書類を持参した時にホームの情報を提供したり、担当者から情報を提供していただくなど、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は、入居者の暮らしぶりや行事などの出来事を月1回、一人ひとりについて手紙に記し送付している。また、運営推進会議の案内も全家族に配布している。心身の状況に変化があった場合は、すぐに電話連絡をしている。遠方の家族が久しぶりの来訪された時には、入居者と家族の写真を撮り本人に渡したら大変喜ばれ、居室に飾っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱が設置され、自由に意見が言えるように配慮されている。家族会はないが、運営推進会議の後、1時間くらい家族と職員が意見交換会を行っている。参加できなかった方には、直接電話で話を伺っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が交代する場合は新人職員に対して、入居者のダメージにならないように、行動や入居者の表情、言葉かけ、排泄などは先輩職員について指導を受けている。夜勤者が新人職員の場合も、1～2回ほど先輩職員と一緒に付き添うことになっている。入居者には新人職員の顔に馴染んでもらい、言葉をかけることによって不穏にならないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、職員に案内をしている。受講後、資料を回覧や閲覧したり、時間を見つけては話をするなど、全職員で共有する取り組みを行っている。都合により参加できない時は、職員は個人的に研修を受講している。		限られた職員体制の中で実務にきたさないように職員間で十分に話し合いグループホームとしての研修機会の確保を期待したい。
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市介護サービス事業者連絡研究会のグループ協議会には、3カ月ごとに管理者が参加している。同業者とさまざまな問題について意見交換を電話ですることによって、サービスの向上を目指している。		職員も同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう、今後の取り組みに期待したい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に3~7日間の体験入居をすることができ、職員や他の入居者、ホームの雰囲気を感じることができる。利用する方もいれはすぐに入居される方もいる。夕方になると心理的に不安を抱える入居者には、その都度「お茶を飲みましょう」「歌を歌ってからバス1番で帰りましょうね」と話しながら様子を見て、話題を変えるなど工夫している。今後、ショートステイを考えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本当の家族にはなれないが、自分の家族のように入居者に接しており、信頼関係を築きながら共に支え合っている。勤務につくと、自然に「お帰りなさい」「ただいま」の言葉が交わされている。百人一首をすると、諺を入居者が教えてくれたり、礼儀作法を教えられるなど、職員は入居者から学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントをとり、入居者の希望や意向の把握に努めている。入浴を拒否される方には、3人の職員が交代で声をかけたり一緒に浴槽に入るなど、入居者の表情を意識しながら、本人の思いを理解するよう努めている。思いを表に出さない方については「つぶやき」を逃さないように聞き取り、申し送りで伝え情報を共有している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に本人や家族からも意向を聞き取り介護計画を立てている。職員全員が一人を受け持つ担当制を実施しており、介護計画に参加している。1カ月毎に担当する入居者を変更しており、月1回のカンファレンスで話し合い、他の職員の意見やアイデアを介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が見られる時には、その都度管理者や担当職員と共に話し合い、時には家族にも参加してもらい、現状に即した介護計画の見直しをしている。参加できない関係者からは、電話連絡などで現状を報告して、意見や希望を聞き取り新たな介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院や個別の外出など対応できる準備はある。家族都合に合わせた対応にも柔軟な考えを持っている。「月参り」の生活習慣の継続など支援方法を管理者と職員で話し合っている。一時の緊急入居については、ホームの状況を見極めた上で支援や受け入れが可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2週間に1回かかりつけ医の往診がある。歯科受診は治療の内容により通院、訪問で対応している。年2回の健康診断を実施しており、生活習慣病には、通院、往診で本人や家族が安心できる支援をしている。本人と家族と話し合い、今までのかかりつけ医や希望の医療機関への受診の支援も配慮している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの提携病院や嘱託医の状況を説明して本人や家族と話し合い、意向の確認をしている。ホームの方針を説明して同意書をいただいている。経験豊富な看護師が介護支援専門員としてそばにあり、健康管理や心の準備についても検討している。家族と共にホーム全体の安心となっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの配慮は人としての尊厳に関わる事として捉えている。「職員を育てる」が課題の一つであり、徹底するにはどのような指導ができるか、一人の職員ができればホーム全体の課題であると取り組んでいる。個人情報の記録物は整理整頓の保管がされている。</p>		<p>言葉の使い方で「思いやり、優しさ」が届かなくなってしまう事、拘束になり得る事を気付く指導が期待される。管理者のみでなく職員全員で話し合ったり、声をかけ合う職場の雰囲気作りの工夫も望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>訪問時に起床が遅くなった方の朝食風景や床上げした方の昼食風景が見られ、一人ひとりのペースを大切に支援がされている。風呂に入る日はおおむね決まっているが不満の声は聞かれず楽しみの一つになっている。その日の決め事はなく、希望に添って支援している。俳句、和歌、習字など入居者の作品が飾ってある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓テーブルに職員も一緒に、外出の相談をしながら揃っている姿が見られた。同じ献立を一人ひとりに合わせた盛り付け、食器、食事形態の工夫がされていて、おかわりも自由である。盛り付け、配膳、後片付けなど、慣れた手つきで参加している姿が見られた。一人ひとりの好みや体調に合わせた声かけをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて風呂の準備をしている。週に3回と毎日入れるユニットがあり希望や状況により、ユニット毎の協力体制で支援している。体調や状態により、清拭や足浴の対応で楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事、おやつ作り、花の手入れ、俳句、掃除など張り合いや喜びの持てる出番が準備されている。訪問時には掃除機で廊下、自室を笑顔で掃除している入居者の姿が各ユニットで見られた。百人一首や俳句を書いたための作品や塗り絵が、共用スペースや居室に飾ってあり、楽しみの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候により外出の希望に添えない日は外気を取り入れたり、玄関を一步出る工夫をしている。ホーム内で楽しめる様にカラオケや次の楽しみ事を話し合っ気分転換を支援している。車で買い物、公園でドライブ、お花見、紅葉狩りなど出かけたり近所の散歩をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは屋外に設置されており、建物の構造上、玄関は施錠している。一人ひとりの外出傾向を理解しており見守りをしている。1階は安全管理事務所に契約をして侵入者への安全管理をしている。		地域の状況や建築物の構造上施錠の必要性を否定できない場合もあるが、日中、外に出られない心理的な不安、閉塞感についても話し合う機会が望まれる。安全面に配慮しながら日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支える意識や姿勢を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回避難訓練を実施している。消防署の協力を依頼したが人数の関係でできなかった。職員が個々に公共の講習会に参加しており防災への意識は高く備蓄品の検討も考慮している。3~4日の水を備蓄して災害時に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録して職員間で把握している。栄養状態は健康診断の結果や月初めの体重管理で行っている。摂取量の少ない人へは食器の工夫、食事形態、品物を変えたりして暮らし全体を通じて個別の支援をしている。経験豊富な看護師の観察が見守りの強化になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先はプランターの花や季節の野菜が出迎えてくれる。リビングの大きな窓に広い空が見え、楽しんだり明かり取りになっている。リビングと台所に食器棚で目隠しが施されたり、共用空間に椅子が所々準備されて自由に過ごせる環境である。ホーム内の湿、温度管理は天候や入居者の様子を見ながら調節している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳、フローリングとユニット毎で分かれている。馴染みの寝具や調度品など思い思いに準備されている。時計、カレンダー、作品、家族写真、仏壇、鉢植えなどが飾られ、家族の協力もあり居心地の良い工夫がされている。入居者の希望により飾らない「良さ」も大切にしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。